

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

# エコシティ志木通信

6月1日 (No.58・梅雨入り?かな号)

2010  
\*  
6月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>



写真：天田 眞



ボクのお気に入りの場所だよ。  
いいなああ

勝手にレッドデータ of 志木 (44)

## 湧 水

志木地区は武蔵野台地の端部に位置し、新河岸川や柳瀬川の低地に面した部分は崖線になっている。こうした地形では崖の下に湧水が多くあるものだが、残念なことに、ずっと湧き続けているのは、敷島神社裏の「こもれびのこみち湧水」のみである。昔は他にもよい湧水があったらしいが、開発に伴い姿を消したようだ。

西原ふれあい第三公園の斜面下で湧いている「せど湧水」はニュータウン開発で一旦埋められたものを、11年程前に市民グループが掘り返して復活したもの。  
(天田 眞)

# 2009年度の報告と2010年度の予定

代表理事 天田 眞

エコシティ志木 第8回(2010年度)総会は5月16日(日)に開催され、2009年度の事業報告・決算や2010年度の事業計画・予算が承認されました。また、広報部会の新設や定款の一部の変更(理事の定数削減、部会についての規定の変更)も決まりました。

## ●2009年度の活動報告

### ◆環境、施設の保全・管理及び創出事業

- ① **里山の手入れ**：志木市の公園美化活動会制度に基づき、いろは親水公園こもれびのこみち及び西原ふれあい第三公園(斜面林)の日常管理(清掃、落葉掃き、下刈、伐採等)
- ② **河川敷の清掃**：彩の国リバーサポート制度登録し、柳瀬川右岸志木中学校付近及び新河岸川右岸富士下橋付近より下流でゴミ拾い
- ③ **外来植物駆除作戦**：柳瀬川右岸高橋下流までの全域及び新河岸川右岸富士下橋付近でオオバクサ・アレチウリの抜き取り

### ◆調査、研究事業

- ① **柳瀬川・野鳥&川の生きものウォッチング**：柳瀬川及び水谷田んぼで野鳥調査、柳瀬川で魚類及び底生生物調査と水質調査
- ② **県民参加生き物モニタリング調査**：埼玉県が新規事業として5カ年計画で行う全県的な生物調査の志木地区を担当
- ③ **身近な川の一斉調査**：宗岡中学校科学部と市内8カ所の河川水や湧水を調査
- ④ **埼玉県内一斉ガンカモ調査**：(財)埼玉県生態系保護協会志木支部の柳瀬川調査に協力

### ◆観察会及び学習・教育事業

- ① **こどもとおとなの自然塾**：春の野草、夏の魚、冬の渡り鳥の観察会(秋の鳴く虫は中止)
- ② **小学校等への講師派遣**：柳瀬川での総合学習、プールのヤゴ救出、エコクラブ、志木小ビオトープの手入れ、その他一般講座の講師
- ③ **ボランティア・NPO活動体験者受け入れ**：社協が募集した体験者を受け入れ
- ④ **出前水族館等でイベントへ参加**：「こどもまつり」「いろはふれあい祭り」「志木市民まつり」「つむじ銀杏で街合わせ」に参加し、出前水族館やポスター展示、資料配布

### ◆出版、広報事業

- ① **エコシティ志木通信の発行**：本紙とイベントカレンダーを年4回発行
  - ② **ホームページ管理**：エコシティ志木のHP
  - ③ **活動紹介展示**：催事でのパネル展示等
- ### ◆エコツアー事業(志木まるごと博物館 河童のつづらの活動)
- ① **志木ぶらり散歩**：新河岸川周辺の水に関わる歴史を訪ねる街歩き(埼玉県の新河岸川広域景観プロジェクトと合同実施)
  - ② **惣囲堤と水塚の文化に学ぶ事業**：宗岡地区の水塚の調査、惣囲堤・樋門等の調査、講演会・シンポジウムの開催、パンフレット制作等(生活協同組合ドゥコープの助成)
  - ③ **ホームページ運営**：河童のつづらのHP

以上、殆どどの事業は前年からの継続で当初計画のものです。が、「西原ふれあい第三公園の管理」と「県民参加生き物モニタリング調査」は年度途中から新たに取り組みました。

「惣囲堤と水塚の文化に学ぶ事業」では一般から応募したスタッフとともに宗岡地区の水塚21件を訪問調査しました。

## ●2010年度の主な取り組み

前年度の事業は全て継続して行います。

こもれびのこみちと西原の斜面林は、樹林が少ない志木には大変貴重なもの。私たちならではの手法で自然の保全・再生を図ります。外来植物駆除作戦は、成果を定着させるにはまだ努力が必要です。市制40周年記念事業の1つである「水辺のお助け隊」に協力し、外来植物問題についての啓発も行います。

生き物モニタリング調査への参加を機に志木の生物情報の充実を図ります。

水塚調査は2年目に入り、明治43年大水害100周年にちなんで成果の展示を行います。また、調査報告書の発行を目指します。



4/25  
(日)

こどもとおとなの自然塾（第1回）

## 春の野草を見てみよう



観察日当日は穏やかな良い天気にも恵まれました。

午前9時に柳瀬川サミット前に集まったのは総勢14名(うちこども1名)。志木市立教育サポートセンター小川所長の挨拶の後、早速観察を開始しました。

サミット横の歩道の隙間からも「ツメクサ」や「アメリカフウロ」などの野草が力強く花を咲かせていました。柳瀬川土手から富士見橋を渡り、水谷たんぼを中心に観察しました。

「キュリグサ」と「ハナイバナ」、「オオイヌノフグリ」と「オオカワヂシャ」と花の形がそっくりなものを、実物を目で見て比較するこ

とが出来ました。また「スイバ」や「クワ」は雌雄異株で、それぞれの花の違いなどを興味深く聞きました。

春の七草の一つ「ホトケノザ」は「コオニタビラコ」であること、「コオニタビラコ」が「ホトケノザ」と言われる様子(写真・下)を見ることが出来ました。

観察された野草は65種類(去年は67種類)でした。

柳瀬川の土手には春は「カラスムギ」が、夏から秋には「セイバンモロコシ」が繁茂し可憐な草花が見られなくなってきました。

(山崎光久)



コオニタビラコの「仏の座」

5/9  
(日)

## 志木おやこ劇場主催 こどもまつり「柳瀬川・出前水族館」

子どもまつりは、志木おやこ劇場が主催して、子どもの権利条約をもとに子どもたちの豊かな文化環境づくりをすすめ、地域でのさまざまな人々とのかかわり合いを大切に、子どもの社会参画の機会をつくっていくという思いをかたちにしています。

本会は、毎年恒例の“柳瀬川・出前水族館”を出展しました。

今年は久しぶりに投網を使ったので、アユやオイカワなど手網では捕れないお魚も展示することが出来ました。また、ハグロトンボのヤゴや手・足が出てきているオタマジャクシなどと、カゲロウ・シマイシビルなど普段なかなか間近

で見ることの無い水生生物たちも加わって、とても好評でした。また、近くに咲いていた春の野草もゲスト出演しました。(伊藤智明)





4/29  
(日)

新河岸川ぶらり散歩

## 入間第二用水(旧赤間川)の最上流を歩く



上奥富用水堰

新河岸川を志木から源流まで4回で歩く企画の最上流、入間第二用水(旧赤間川)を西武線新狭山駅から入間市の笹井堰まで歩きました。参加者33名。

駅から北へ、武蔵野台地を下ると、そこを流れる入間第二用水はコンクリート3面張りの素っ気無い水路。台地直下を流れる水路に沿って上流へしばらく進むと、右側にもう一つの用水が流れてくる。この上奥富用水に沿って上流へ向かうと、程なく入間川の上奥富用水堰に至る。前日の雨で増水した堰は豪快に水しぶきを上げていた。かつては、この上奥富用水も含めて赤間川と呼ばれていた。

再び、入間第二用水に沿って上流へ。やがて狭山市街地に入り、入間川河川敷での昼食を挟み、ひたすら用水に沿って歩く。三面張りの用水路は幅も深さも変わらず単調だ。

入間市に入ると水路は川に直角にぶつかる。この川は青梅から流れてくる霞川で、水路はこの下をくぐっている。霞川を渡り再び用水に沿って進むと、やがて入間川河川敷を造成した運動場。その縁を流れる水路をたどれなくなったところで台地へ上り笹井堰へ。

単調な用水路に飽きた目には壮大な堰の姿は感動的だ。笹井堰は江戸時代に蛇籠や杭木で造られていたが、1939(昭和14)年に現在のコンクリートの堰に改築された。(天田 眞)



壮大な景観の笹井堰

5/22  
(土)

## 志木市市制施行 40周年記念 オープニングセレモニー

志木市市制40周年記念事業がスタートし、そのオープニングセレモニー「Hand-in-Hand 志木」が5月22日(土)午後1時～4時まで、市民会館パルシティホールにて開催されました。

当会は、第3部午後1時半から駐車場で行われた「親子の遊び場体験スペース」に参加しました。これは、市内で親子の遊び場や遊びの機会を提供するなどの活動をしている13団体の

一つとして参加協力したものです。

内容は、出前水族館と活動パネル展示、7月に行われる「魚と遊ぼう」のチラシ配布などです。

出前水族館は、いつも人気で子どもたちがいっぱい集まってきます。今回はたくさん捕れたアメリカザリガニを子どもたちに2、3匹ずつプレゼントし、とても好評でした。

(山口美智江)



5/2  
(日)

惣囲堤と水塚の文化に学ぶ事業

## 南畑（なんばた：富士見市）地区の水塚調査



こんな典型的な水塚が見られました。  
やはり水田がないと水塚の雰囲気が出ませんね。

NPO法人エコシティ志木の「惣囲堤と水塚（みづか）の文化に学ぶ事業」の2年度目のイベントのひとつとして「南畑地区（なんばた：埼玉県富士見市）」の水塚調査が5月2日に行われ、参加してきました。

快晴のもと、水塚調査員15名で、田植え間近の広大な水田地帯の中を歩き回ること約5時間！

ここは志木・宗岡地区の上流で、同じく荒川と新河岸に囲まれた地域になります。3軒のお宅と難波田城公園内の保存水塚を見学し、お話

をうかがうことができました。改修以前の荒川はこの南畑地区のすぐ上流付近で決壊することが多く、またここは純農村地でもあったため、水塚も近年までかなり残っていた地域です。

『日本残酷物語』というノンフィクションの古典的名著の「近代の暗黒」にも登場するほど、かつては厳しい生活があったようです。

水塚調査はあと3回あるそうで、次回7月4日は埼玉県朝霞市の内間木地区、8月1日は宗岡地区、9月5日が荒川上流の川島町の予定だそうです。  
[筑井信明]



納屋には避難用の小舟がつるしてあり、  
今でも使える状態のよいものもあります。

### ■「惣囲堤と水塚の文化に学ぶ事業」2009年度報告書完成

上記事業（生活協同組合ドゥコープ助成）の「2009年度事業報告書」を3月31日に発行しました。報告書には個人情報も含まれているため一般への配布はおこなっていませんが、残部が少しありますので会員の方で希望

者はお申し出ください。

当報告書は活動概要の報告ですが、助成が受けられれば、一般にも配布できる詳細な報告書を発行する予定です。お楽しみに。

（毛利将範）

### ■ 新河岸川流域・身近な川の一斉水質調査マップ2009完成

毎年6月に実施している新河岸川流域・身近な川の一斉水質調査マップの2009年度版が完成しました。2009年度版は、新河岸川流域に残る湧水写真や水生生物などで飾られていて面白いです。ちなみに、2008年度版は毛利将範さんの切り絵（新河岸川流域しん

ぶん「里川」の表紙）が中心でこちらも好評でした。

次回の通信発行時には同封出来るようにしたいと思いますので、楽しみにしてください。（伊藤智明）





↑ アレチウリの除去作業

# 河川敷の外来植物

NPO法人エコシティ志木代表理事

天田 眞

柳瀬川や新河岸川の河川敷は一面緑の草で覆われています。おそらく数百種類はあるでしょう。こうした野草の内かなりのものは外来種で占められています。外来種がどのくらいの割合で存在しているかわかりませんが、外来種には大型のものや、大群落をつくるものが多く、地面を覆う割合でいえば在来種を圧倒しているといえます。

例えば、柳瀬川の志木市役所の対岸にあたる場所に垂直護岸と川に区分され人が入れず草刈も行われていない河川敷があります。ここは春には一面の菜の花に覆われますが、これは外来種のセイヨウカラシナです。その種が熟すころには外来種のアレチウリが伸びてきて、真夏には全体を隙間なくびっしりと覆い尽くします。

こうした外来植物の繁茂は、広範な日陰をつくることにより在来植物の生育の場を奪ったり、近縁の在来植物と交雑して種の独自性が失われる等の問題があります。

「外来生物法」では地域本来の生態系に大きな悪影響を及ぼす外来生物を特定外来生物とし

て指定して、飼育・栽培・保管・運搬を禁止しており、植物については12種が指定されていますが、その内4種が志木の河川敷で見られます。

以下に、柳瀬川や新河岸川の河川敷で見られる主な外来植物を紹介します。

## ◆特定外来生物に指定のもの

**アレチウリ**：ウリ科一年生草本、北アメリカ原産 一つの株からつるが枝分かれしながらどんどん伸び長さ10mほどになる。夏にはあたり一面を覆ってしまい、覆われた植物は光をさえぎられ枯れてしまう。発芽期間が長期にわたるので一度駆除しても、また新しく発芽した株がすぐに広がってしまう。

**オオカワヂシャ**：ゴマノハグサ科多年生草本、ヨーロッパ原産 柳瀬川では水際で1mくらい



河川敷を覆いつくすアレチウリ



葉が重なり合い光を通さない



アレチウリの果実





大きな葉を広げるオオブタクサ



オオブタクサの花

の高さになり、河川敷の湿っぽいところでは小さな株が沢山見られる。オオイヌノフグリに似た花をつけるが、在来種のカワヂシャ（準絶滅危惧種）と交雑するといわれる。

**オオキンケイギク**：キク科多年生草本 北アメリカ原産 志木では堤防の斜面などに植えられているところがあり野生化はしていないようだが、近縁種のハルシャギクは河川敷で見られる。

**オオフサモ**：アリノトウグサ科多年生草本、南アメリカ原産 観賞用として持ち込まれた。川の岸に近い浅瀬で地下茎を広げ、水上に茎葉を立ち上げる。柳瀬川で時々小さな群落を作っている。

#### ◆その他、大型で広く繁茂するもの

**オオブタクサ**：キク科一年生草本、北アメリカ原産 春から次々と発芽し大きな葉を伸ばし、密生すると光をさえぎり他の植物を枯らしてしまう。草丈は普通で2～3m、大きいものは4mを超える。8月下旬から開花が始まるが、大量の花粉を飛ばし花粉症の原因となる。

**セイバンモロコシ**：イネ科多年生草本、ヨーロッパ原産 草刈を実施しているところに地下茎を伸ばして、刈り込まれてもすぐに伸びて2mに達し、夏から秋にかけて穂を伸ばす。

**セイヨウカラシナ**：アブラナ科二年生草本、ユーラシア原産 春に河川敷を一面黄色く染める菜の花。秋に発芽し、初夏に種子が熟すので草刈の有無には関係なく、大きな株は草丈1.5mくらいになる。



オオブタクサの駆除作業

**イヌキクイモ**：キク科多年生草本、北アメリカ原産 刈残し部分に多く、草丈2mに達し、夏から秋に黄色い大型の花をつける。地下にイモをつくる。

**ホソアオゲイトウ**：ヒユ科一年生草本、南アメリカ原産 草丈2m程になり、夏～秋に花穂をつける。

**セイトカアワダチソウ**：キク科多年生草本、北アメリカ原産 草丈2m以上になり秋に黄色い花を咲かせる。大群落をつくることもあるが、志木の河川敷では最近ではそれほど多くないようだ。

エコシティ志木ではこれらの内、アレチウリとオオブタクサを対象に駆除作戦を実施していますが、どちらも種子が土の中で長く生き延びるため(シードバンク)、何年にもわたって継続的に駆除を続ける必要があります。



セイバンモロコシ



セイヨウカラシナ



オオカワヂシャ



オオキンケイギク



オオフサモ



イヌキクイモ



# 金子秀樹の 農業日記 <6>

今年も天候不順が続いていますね。

年明けからの野菜の高騰、桜の開花から満開まで2週間かかったり、4月17日には、雪が降りましたし。この時、我が家の苗床用トンネルは、雪の重みでつぶれてしまいました。

この天候不順は、当然ですが宗岡の稲作にも影響を及ぼしています。まず、くろ(畦)付けですが、例年3月中旬に終わるのですが、今年は2～3月に雨が多かった為に、くろ(畦)付け作業が3月中旬過ぎから始まりました。我が家のくろ(畦)付けも4月になってしまいました。

宗岡での種まきは、例年通り3月20日過ぎから始まったのですが、その後の低温と日照不足のため苗の発育が遅れ、田植えは1週間遅れの4月25日頃から始まりました。

我が家の稲作は、3月24日種まき、5月3日田植えと、日付の上では例年通りの作業日程なのですが、苗の出来からすると10日程度田植えを遅らせたほうが良い状態でした。仕事や家族の協力の都合上、5月の連休に田植えを終える必要がありましたので、むりを承知で田植えを行いました。

その後の苗の成長ですが、カルガモの襲撃もあり、指し苗を数度行っただのですが写真の通り、苗の成長遅れ、苗の欠損も目立つ状態です。隣の田んぼ見比べるとその差は歴然としています。

今年の長期天気予報によると6～7月も天気が良くないようなので稲の生育と、ちょっと早いですが台風襲来が心配です。

今年の稲作はこんな状態ですが、畑作の方は下の写真のように今のところ順調です。



4月17日の雪



つぶれた苗床用トンネル



我が家の田んぼ



隣の田んぼ



(左)さつまいも  
(中)たまねぎ  
(上)じゃがいもとコンニャク



生き物情報は→ Tel/Fax 048-471-4275 Email: qwj11624@nifty.com(毛利)へ  
ホームページ⇒<http://kappa-no.net/sizen-info.html>

《鳥類》

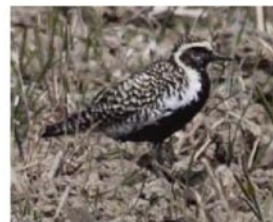
**カシラダカ**(2)・**コチドリ**(6) →3月21日(日) 柳瀬川ウオッチングで [山崎]  
**ツバメ**(3) →3月22日(月・祭日) 富士見橋と高橋の間の柳瀬川 [山崎]  
**カイツブリ**(1) →3月22日(月・祭日) 柳瀬川で [山崎]  
**カワラヒワ**(求愛給餌) →4月18日(日) 水谷田んぼで [山崎]  
**アオサギ**(1) →4月18日(日) 水谷田んぼで。若鳥のようです [山崎]  
**カワセミ**(2) →4月18日(日) 高橋上流の柳瀬川左岸で [山崎]  
**コチドリ**(交尾) →4月18日(日) 栄橋上流の柳瀬川河原で [山崎]  
**ツグミ**(1) →4月18日(日) まだちらほらと咲いている桜の中に [毛利]  
**ムナグロ**(30~40) →4月19日(月) 南畑の富士見高校付近 [山崎]  
**ウグイス**(song) →4月21日(水) 朝霞市宮戸3丁目で。今年初めて [毛利]  
**オオヨシキリ**(声) →5月9日(日) 柳瀬川・志木中学校前の左岸で [毛利]  
**ハシブトガラスとムクドリ** →5月18日(火) 下宗岡4丁目でハシブトガラスが  
ムクドリのヒナらしきものを食べていました。ムクドリ2羽とスズメ数羽が激  
しい警戒声を浴びせながらカラスに攻撃を仕掛けていました [毛利]



カイツブリ3/22 (山崎)



カワラヒワ4/18 (山崎)



ムナグロ4/19 (山崎)

《ほ乳類》

**アブラコウモリ**(1) →5月8日(土) 幸町1丁目のマンション駐車場上空 [毛利]

《植物》

**ソメイヨシノ**(開花) →3月21日(日) 柳瀬川右岸。1輪だけ開花 [毛利]

環境 ひとくちメモ(17) 伊藤 智明

「これからの天気予報」

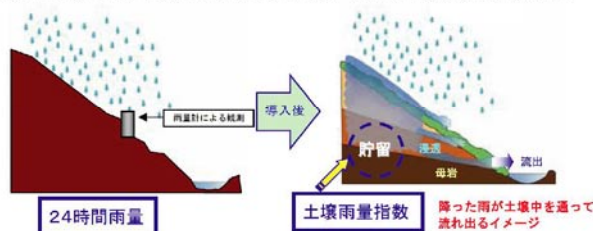
気象庁がこの5月から、効果的な防災対応につなげるため、個別の市町村を対象として天気予報を発表することになったのはニュースでも目にされたと思います。この他、大雨及び洪水警報・注意報の基準に災害発生と対応の新たな指標(流域雨量指数、土壌雨量指数)が導入されることになりました。

洪水警報・注意報で導入される「流域雨量指数」は、流域の雨の量に基づく指標で、対象区域に降る雨の量で算出した指標である24時間雨量に代わるものです。これにより水害発生の危険性をより高い確度でとらえられるようになります。

大雨警報・注意報で導入される「土壌雨量

〈土壌雨量指数〉

地上に降る雨の量で算出した指標である24時間雨量に代えて、土砂災害発生の危険性を示す指標である土壌雨量指数を導入します。土壌雨量指数は、土壌中に貯まっている雨の量をタンクモデル※を用いて計算した指数です。



指数」は、土壌中に貯まっている雨の量に基づき、降雨による土砂災害発生の危険性を示す指標で、地上に降る雨の量で算出した指標である24時間雨量に代わるものです。避難準備等への活用を目指した防災情報として発表できるようになります。

(出典)気象庁 ホームページ 報道発表資料 平成22年4月21日

「大雨や洪水などの気象警報・注意報の改善実施日について」

[http://www.jma.go.jp/jma/press/1004/21b/sichouson\\_keihou2.htm](http://www.jma.go.jp/jma/press/1004/21b/sichouson_keihou2.htm)



## ☆会員状況

2010年度更新済み会員 (5/25現在)

個人正会員 37

団体正会員 2

賛助会員 2

★寄付をいただいた方

岩上 弘 様

上田 勲 様

大滝 孝久 様

栗林 菊夫 様

西川武重郎 様

吉田 孝 様

★本会の財政基盤は、  
会員の方の年会費が  
頼りです。

★今年度も継続更新  
をよろしく願ひし  
ます。

★宛名シールに会費  
の有効期間が書いて  
ありますので、チェッ  
クしてください。



## ■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

## ■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

志木柳瀬川ロータリークラブ

## ■当会が参加している、または主な 協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティ協議会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川広域景観づくり連絡会

埼玉県南西部地域NPO連絡会

(財)埼玉県生態系保護協会志木支部

市内小中学校

志木市立教育サポートセンター

志木のまち案内人の会

グループぼんぼこ

新河岸川流域川づくり連絡会

情報満載！  
当会のホームページ

公式ホームページ

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

志木まるごと博物館「河童のつづら」

<http://kappa-no.net/>

## 2010年度 役員

|     |         |    |                |
|-----|---------|----|----------------|
| 理 事 | 天田 眞    | 再任 | 代表理事           |
|     | 飯塚 伸夫   | 再任 |                |
|     | 伊藤 智明   | 再任 | 事務局長           |
|     | 金子 秀樹   | 再任 |                |
|     | 小島 敏文   | 再任 |                |
|     | 毛利 将範   | 再任 | 副代表理事／広報部会長    |
|     | 望月 仁    | 再任 |                |
|     | 山口 美智江  | 再任 | 副代表理事／まちづくり部会長 |
|     | 山崎 光久   | 再任 | 水と緑部会長         |
| 監 事 | 宇津木 美恵子 | 再任 |                |
|     | 松田 勝正   | 新任 |                |

## 2010年度 予算 (2010年4月1日～2011年3月31日)

特定非営利事業に係る事業 (今年度の収益事業計画はありません)

●収入

(単位:円)

| 科 目          | 予算額     | 備 考            |
|--------------|---------|----------------|
| 1 会費等収入      | 162,000 |                |
| 個人会費         | 132,000 | 基本会員数 個人55 家族2 |
| 団体会費         | 10,000  | 団体2            |
| 賛助会費         | 20,000  | 賛助4            |
| 2 事業収入       | 205,000 |                |
| 保全・管理・創出     | 40,000  | 公園美化活動報奨金      |
| 調査・研究        | 100,000 | 生物調査等          |
| 観察会・学習・教育    | 55,000  | 講師謝金等          |
| 出版・広報        | 0       |                |
| エコツアー        | 10,000  | 参加費等           |
| 提言           | 0       |                |
| 3 助成金収入      | 0       |                |
| 志木市          | 0       |                |
| その他          | 0       |                |
| 4 雑収入        | 60,000  |                |
| 寄付金等         | 60,000  |                |
| その他          | 0       |                |
| 5 収益事業より繰り入れ | 0       |                |
| 当期収入合計       | 427,000 |                |
| 前期繰越金        | 559,768 |                |
| 収入合計         | 986,768 |                |

●支出

|           |         |               |
|-----------|---------|---------------|
| 1 事業費     | 262,000 |               |
| 保全・管理・創出  | 40,000  | 斜面林管理、外来植物抜取等 |
| 調査・研究     | 85,000  | 生物調査等         |
| 観察会・学習・教育 | 30,000  | 自然塾・総合学習等     |
| 出版・広報     | 31,000  | 通信作成、送料等      |
| エコツアー     | 70,000  | 水塚調査まとめ、展示等   |
| 提言        | 0       |               |
| 保険料       | 6,000   | 年間保険料負担金      |
| 2 管理費     | 165,000 |               |
| 租税公課      | 0       |               |
| 旅費交通費     | 2,000   |               |
| 通信運搬費     | 3,000   | エコシティ志木通信を除く  |
| 消耗品費      | 1,000   |               |
| 給与手当      | 0       |               |
| 事務局経費     | 140,000 | 事務局分散運営費      |
| 印刷費       | 2,000   | エコシティ志木通信を除く  |
| 参加団体会費    | 13,000  | 4団体分          |
| 会議費       | 1,500   | 運営会議会場費       |
| 雑費        | 2,500   |               |
| 3 予備費     | 0       |               |
| 当期支出合計    | 427,000 |               |
| 当期収支差額    | 0       |               |
| 次期繰越金     | 559,768 |               |



毛虫といえば刺されるものと思われがちですが、実際は殆んどの毛虫は無害です。毛虫の多い季節なので、数少ない実害がある毛虫のうち身近でよく出会うものを取り上げます。

痒くなる毛虫の代表といえる**チャドクガ**はツバキ・サザンカ・チャだけに発生する小型の毛虫で、長い毛が沢山生えています。これとは別に毒針毛と呼ばれる肉眼では見えない微細な毛があり、肌に触れるか、直接触れなくても飛散した毛を浴びても痒くなります。年に2回の発生で、毛虫の期間は5月前後と8～9月頃ですが、卵から成虫まで常に毒針毛を持ち、脱皮殻にも毒針毛が残っているので注意が必要です。若齢幼虫は1枚の葉にびっしりと並んでいますが、成長が進むと分散するので、駆除は

初期の段階に限ります。

一方、触ると強烈に痛い毛虫がイラガの仲間です。**ヒメクロイラガ**は我が家のカキに毎年発生しますが、サクラやケヤキ等にもつきます。**ヒロヘリアオイラガ**はもともと南方系の外来種ですが、最近は志木でも普通に見られる様になりました。サクラ・カキ・モミジ・カシ等いろいろな樹木につくようです。

イラガの仲間は種類が多く、いずれも幼虫は小型ですが、毛はなく全身に鋭い棘があり、触れた瞬間に激しい痛みを感じます。大きな角など特異な形や個性的模様がありますが、成長につれてその姿は変わります。チャドクガと同様に発生初期のまとまっているときに駆除すると楽です。



チャドクガの若齢幼虫



分散し始めたチャドクガ



交尾中のチャドクガ



ヒメクロイラガ（若齢）



ヒメクロイラガ（終齢）



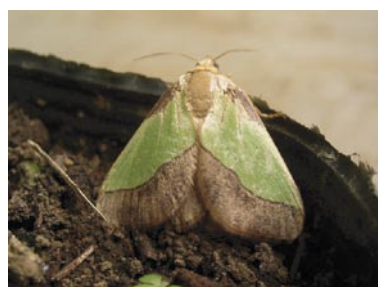
ヒロヘリアオイラガ



ヒロヘリアオイラガ（終齢）



ヒロヘリアオイラガの繭の脱け殻



ヒロヘリアオイラガ成虫



## ハクセキレイ

ハクセキレイは、全長約21cmとムクドリより少し小さくスマートな体型で、白と黒、またはグレーのおしゃれな感じの鳥です。歩くときに常に尾をひよいひよいひよいと上下に振ります。

最近は駐車場や住宅街の路地で見かけることも多くなりました。トラックの荷台の下に巣を作り巣立ちまで見守ることにしたというような新聞記事を見たこともあります。私のイメージでは、ハクセキレイは川原で見かけることが多かったのですが、駐車場などですぐ足下まで来てエサを探している姿には少し違和感があります。文献によると1960年代頃までは北海道や宮城県以北の海岸で繁殖するものが多いという記述が見えるので、次第に勢力範囲を広げているということなのでしょう。

ちなみに、志木周辺でハクセキレイの仲間は4種類見られます。ハクセキレイによく似た日本固有種のセグロセキレイ、それに冬期に見られるキセキレイ、タヒバリです。

キセキレイは黄色のきれいな色彩なので一度見るとすぐファンになってしまいます。また、タヒバリは名前の通りヒバリのような枯れ草色で地味ですが、尾をひよいひよいと上下にする習性は共通なので慣れるとすぐに発見できるようになります。



ハクセキレイとセグロセキレイは模様も体型もよく似ていて判別にとまどうことがあります。分かり易い見分け方として顔の模様を覚えておくといいと思います。ハクセキレイは白い顔で目の所に黒の線が1本通っています（過眼線）。一方セグロセキレイは黒い顔に白い眉があります。

また鳴き声も微妙に違います。ハクセキレイは「チュチュン、チュチュン」と鈴のような声ですが、セグロセキレイは少し濁って「ジジュン、ジジュン」と聞こえます。キセキレイはハクセキレイよりも澄んだ金属音で「チチン、チチン」と鳴きます。

ハクセキレイがもっともきれいに見えるのはやはり川ではないでしょうか。川面をチチンチチンと舞いながら川虫を空中でキャッチする姿を見ると、清流が身近にあることの幸せを感じます。



◇2010年度から広報部会が設けられました。なるべく定期的に集まりをもって、エコシティ志木通信やホームページなどの広報活動について意見交換をしたいと思っています。

◇どうぞお気軽にご参加ください。お待ちしております。（ふくろう）